

BASF

We create chemistry

大豆生産者の皆様へ

「幼虫」を防除することが、 カメムシ対策の新常識です。

- ・大豆を加害するカメムシの幼虫に優れた効果
- ・チョウ目害虫やハダニ類を同時防除
- ・無人航空機での防除も可能

殺虫剤

カスケード[®]乳剤



ミナミアオカメムシ 幼虫

大豆畑の「雑草管理」を
発信する情報サイト

Soy Channel



カスケード乳剤の活性一覧

【殺虫効果】

特大

大

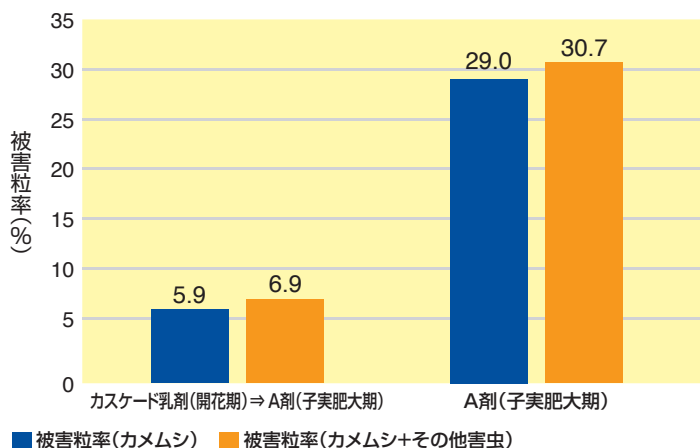
中

小

ホソヘリカメムシ		クサギカメムシ		ミナミアオカメムシ		イチモンジカメムシ	
幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫

カスケード[®]乳剤は、だいたいの主要カメムシ類幼虫に対して非常に高い活性を示します。

社内試験結果(カメムシ被害粒調査)



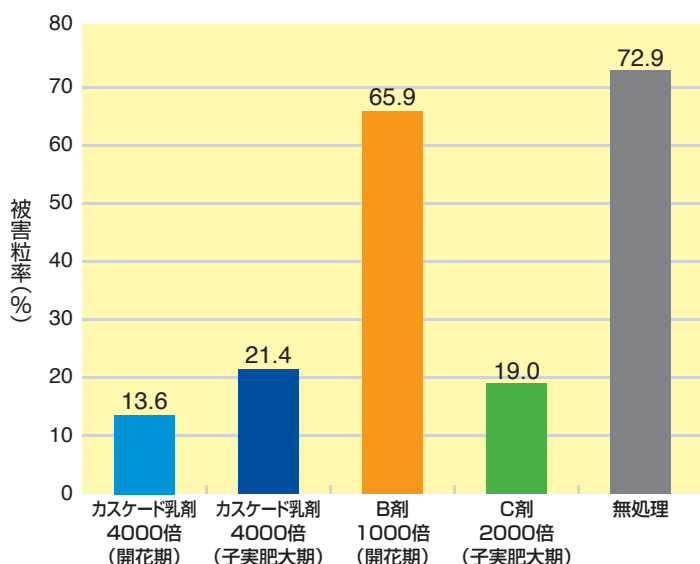
2018年 BASF社内試験(福岡県小郡市)
 供試作物: だいず(フクユタカ)
 対象害虫: ミナミアオカメムシ主体
 散布日: 開花期(カスケード乳剤32倍)、子実肥大期(A剤)
 散布方法: 無人ヘリ散布
 調査方法: 各区5か所から収穫後に被害粒数調査
 被害粒率は調査粒数における健全粒数の割合から算出



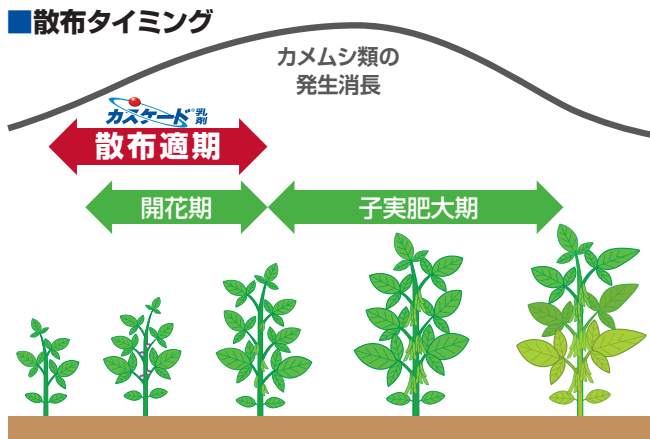
カメムシに被害を受けた大豆は、吸汁されることにより扁平したり、表面に小さな吸汁痕が見られます。○吸汁痕

カスケード乳剤を開花期に体系処理することで、カメムシ等の被害粒率が約23%減少した。

社内試験結果(効果的な散布タイミング)



2014年 BASF社内試験(田原研究所 屋外ポット試験)
 供試作物: だいず(フクユタカ)
 対象害虫: ミナミアオカメムシ
 (9月30日及び10月17日の2回、卵塊を全区葉上接種)
 播種日: 8月6日
 散布日: 9月29日(開花期)、10月16日(子実肥大期)
 調査日: 11月15日
 調査方法: 収穫後に被害粒数調査(3反復平均)



カスケード乳剤の開花期散布は子実肥大期以上に効果的で、C剤の子実肥大期散布と同等だった。

適用害虫と使用方法(だいずのみ抜粋)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルフェノクスロンを含む農薬の総使用回数
だいず	ハスモンヨトウ ウコンノメイガ カメムシ類 ハダニ類 マメシクイガ フタスジヒメハムシ ダイズサヤタババエ	4000倍	100~300ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
		32倍	0.8ℓ/10a			無人航空機による散布	

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届く所には置かないでください。
- 使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。
- 防除日誌を記帳しましょう。

